同十九日　　御奏者　安藤対馬守
　　　　　　　　　　番山　大隅守

一　今朝安藤対馬守より申越候は、昨日登城仕候節、御老中より被仰聞候は、
　　将軍家御病気御重く、御養生も不被為叶、御事切迫に及候間、御三家
　　御三卿へ御知らせ被遊候様との御事に候間、其許へも御知らせ申候
　　との事に候。

一　右御口上、御老中へ同じ。

一　右之通り、其筋へ同じ刻限に申達候。

一　有馬遠江守　御奏者　御側衆
　　御知らせ　但し、御病気御重く、御養生も不被為叶、御事切迫に及候間、
　　右の趣御三家へ御知らせ申上候との事。

一　右御口上、御老中へ同じ。

一　右同断、御三卿へ御知らせ申上候。

一　右同断、御三家へ御知らせ申上候。

一　右同断、御三卿へ御知らせ申上候。

6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 備後福山阿部家史料-02-004　御奏者番留書 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4

PermLink https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/image/idata/T50/02/004/00000024.jpg

Copyright © 1997 - Historiographical Institute The University of Tokyo © 東京大学